Pichari ～ピチャリ～
七飯町歴史館だより
第177号

ななえ古写真物語 VOL.177

大沼とスイレン

絵葉書「大沼公園の風光集」より
昭和初期
大沼地区

湖に浮かぶスイレンの花。言葉を聞いただけで、脳裏に絵を浮かべることができるほど、その姿は特徴的である。このスイレンは、七飯町の大沼国定公園で盛夏になると白、ピンク、黄色など色とりどりの花を浮かべ、湖面に彩りを添える、夏の風物詩と言っても過言ではない。

上の写真は戦前となる昭和初期に発行された絵葉書「大沼公園の風光集」におさめられた一枚なのだが、ここにもスイレンの美しさを写した一枚があった。右上には「水面にゆかしく薫る睡蓮の花」の説明と併記して（北海道大沼公園）の文字が見える。また、これらの絵葉書を封した紙袋には、噴煙をあげる駒ケ岳が描かれているので、おそらくは昭和４年の大噴火以降に発行されたものと推測している。ほかに発行されている同時期の絵葉書にもスイレンが写されたものがあることから、大沼のスイレンの美しさは、古くから知られる所だったのだろう。

ところで、ここ数年ほど当館では町内の植生調査を継続しているのだが、まだスイレンは採取していない。大沼は国定公園なので、基本的には採集禁止。ゆくゆくは採取するつもりだが、植物を調べているがゆえに、いくつかの疑問がそこにある。その一つが、日本に自生しているスイレンの仲間はヒツジグサ一種であるということである。

写真のスイレンは、花の大きさや花弁の枚数から熱帯性の種で、自生種のヒツジグサではないことがうかがえる。ということは、誰かが大沼に持ち込んだ「移入種」であるのだ。

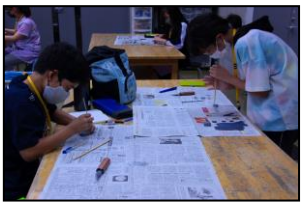
大正３年に提出され、大沼公園の整備の指針となった本多静六の「大沼公園改良案」によると、外国樹種見本園や西洋草花を植栽しようとしていたことがうかがえるが、具体的に何を植栽しようとしていたかは、本文中からはわからなかった。しかし、調べていくうちに大正６年8月16日発行の函館毎日新聞に「函館附近名勝」というタイトルで大沼公園についての記事があった。それによると「◇園と自然 園内には本道生の樹木総て植栽せらる植付面積五百坪あり、天然樹の外、藤、桜、梅、躑躅等を始め和洋花卉類数十種を各所に培養し、蓴菜、睡蓮、河骨、ガマ、フトイ、芦、菱等の水草も少なからず（中略）」とある。これは大沼のスイレンについて記載された最も古い記事と思われる。この記事から、推測だが大沼のスイレンは、大沼公園改良案に従い大正期に植えられ、外来種でありながらも、幾多の年月を経て多くの人が当たり前の風景として認知するに至ったのだろう。一方で減少してきたヒツジグサの心配もしている。

日進月報 <2022. 8>

3日　箱館写真とデジタルアーカイブ

夜の博物館第３夜を行いました。講師は、市立函館博物館学芸員の奥野進氏。函館中央図書館のデジタル資料館にも尽力した頼もしい講師です。そもそもデジタルアーカイブとは何か？から始まり、アーカイブ化はどんなことをもたらすか、など活用の方法も紹介して頂きました。豊富に残っている明治期の箱館のパノラマ写真を例に、沖に停泊している舟や、当時の家屋の様子などを拡大して見ることができ、想像の先の可能性を知った一夜でした。

27日　水の生きものと勾玉と。



この日は曇り空。水の中の生き物を探しに、大沼方面へ。いざ採集という時に、猛烈な蚊の攻撃にみまわれ、採集どころではなくなり、避難して別の場所に移動しました。そこでは、魚やヤゴ、エビなどをみつけ、水の中にも多様な生き物が暮らしていることを知りました。天候が悪くなりそうだったので、午後からは歴史館に戻り、勾玉つくりを行いましたが、棒で穴をあけるのに、苦労していたようです。なんだか、内も外も苦労の多い一日となりました。

鉄道資料を残す

２０２２年３月のダイヤ改正に伴い、町内の「池田園」「流山温泉」「銚子口」各駅がその幕を降ろしました。駅構内外で使われた看板や駅名表示板、時刻表などの数点を歴史館で譲り受け、まちの資料として登録し、クリーニング、注記、撮影という手順を踏んで、収蔵庫の新たな住人となります。当たり前にあったものが、その日を境に名前を消し、やがては姿を消してしまう。目の前の資料に思いを馳せつつ、重い資料と格闘しています。

編集後記　～tawagoto～

企画展を観覧して頂いたお客様にプレゼントをと、鳥の切り紙を貼ったポチ袋を置いている。作った枚数は１９０を超えた。毎日手を動かしても上手にできないでいる。初夏に青森にある棟方志功記念館を訪れた。人の手が生み出す、温かで、精緻を超えた作品を前に多くの人が立ち止まって見ていた。また以前に青森県内の小学生の版画作品を見たときは、その芸術性と技術に驚いた。文化を育むのは風土なのか、そこには謙虚さと美しさが同居していた。

10月の予定

1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	スポーツの日
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	ピチャリ第178号発行
21	金	
22	土	ジュニア探検クラブ
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

※10月の休館日はありません

民家のおばあちゃん

民家の入り口で聞こえるおばあちゃの声。小さな子どもは後ずさり。なぜか「おばあちゃ～ん」と呼ぶ子も。

Pichari ～ピチャリ～
第177号
令和4年9月20日発行
七飯町歴史館
〒041-1193　亀田郡七飯町本町６丁目１－３
電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182
E-mail：rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp